

中学生 広島平和教育研修

8月5日から7日まで、富士見中学校2年生5名（引率教諭1名）が広島市を訪れ、平和祈念式への参列、資料館の見学、灯ろう流し等を通じて、平和への思いを深めました。

参加者5名がこの研修で感じた思いや決意を今月から紹介します。



富士見中学校2年
うえまつ 莉美 植松

「広島平和教育研修を 終えて思うこと」

毎年夏になると戦争に関するニュースやテレビ番組をみるたびに複雑な気持ちになりました。ただその感情は、その時だけのものではなく、興味がある程度でした。

中学生になって歴史の授業で戦争について勉強していくうちにとても興味をもつようになり、広島市の平和学習の案内をみた時、すぐ行きたいと申し込みました。実際に原爆が落とされた場所へ行き、今平和な日本がその時原爆でどうなってしまったのか。写真や資料だけでなく、被爆した方の話を直接聞き、焼け残った原爆ドームをみて間近で感じたいと思ったからです。

事前学習をして驚く事がいっぱいありました。写真で残された遺品や建物の傷をみて、原爆によってこんなにボロボロになつてしまうのか。実際近くで見たらもっとひどいだろうと思うと怖くなりました。ネットで原爆によって出た被爆した方への影響などを調べ、読んだ時、もうこんな風に罪のない人が苦しんで死んでしまう核兵器は持つてはいけません。

争うという考えを持つてはいけなさんだと思えました。

実際に広島に行き、資料館に行つて残された遺品をたくさん見てきました。どれももうボロボロで、ビンでさえドロドロになつていてどんなに熱かったのかを考えた時、原爆を受けた人達はどうなにか熱くて痛かったのかと思ひ、写真でみるより生々しさが直に伝わつて怖かったです。

被爆した学校へ行つて見ると、中まで傷がついてたり壊れてたりして、中にいても安全とはいえなかったんだと知つて、来る前より爆撃の強さを思ひ知りました。原爆で多くの人が苦しんで死んでしまいました。経験者の話から、ビデオから、いかにつらい思ひをして亡くなつていったか、すぐく伝わつてきて、残酷な世界が広がつていたんだと思ひと悲しかったし、繰り返してはいけなと思ひました。

調べて写真や文でみるより、実際の遺品を間近で見ると比べ物にならないほど怖かったです。人間は人を幸せにする事も不幸にする事もできるんだと知りました。73年前どんなに多くの罪のない、幸せな暮らしをするはずだった人々の命を原爆投下によつて奪つたか。遺品や経験者の話から私達は学び、日本の悲惨な過去を知る必要があります。私は73年前にあつた現実を、苦しみやつらさをのり越え、平和な未来のためにずっと伝え続けてきてくれた広島の人々のためにも伝えていきたいです。

しかし、まだ世界には一万コもの核があります。まだ8か国も核保有国があります。核兵器も近代化しつつあります。

だから平和や戦争についてこう思ひます。核兵器がある限り、国と国で手を取り合つて生きていこうと思ひない限り平和な未来はこないと思ひます。もう二度と核によつて苦しむ人が出てほしくないます。核のない平和な世界になつてほしいなと思ひます。



富士見中学校2年
かない 主門 金井

「広島平和研修」

原子爆弾投下から73年がたちました。あの日の朝は絶対に忘れてはいけな日です。あの一発でたくさんの方が命を落としました。月曜日の朝だった事もあり、たくさんの方が外を歩いていました。

あの日からちょうど73年後の朝、この平和祈念式典にはたくさんの方の遺族や、県外の方が集まりました。式典が始まると、周りはとても静かになりました。悲しくて、むなしい雰囲気がなりました。そのあと献花が行われた時に遺族の方で泣いていて方がいました。その方は、とても複

雑な気持ちだったと思います。その後、寺本さんに当時の話をしてもらいました。寺本さんは、原子爆弾で母をなくしたそうです。友達も家族を失ったりしたそうです。今、自分の周りにあたりまえに家族がいることがどれだけ幸せか実感しました。

平和記念資料館では、当時の実物がたくさん展示してありました。血がついていたり、こげたり、こわれていたり、すごい激しかった事が分かりました。特に僕の印象に残っているのは、穴のあいたかべです。爆風の力でがれきがとんできて、コンクリートのかべに穴があいてました。ほかにも、たくさん展示品を見て、知識を得ました。そして戦争のおそろしさを肌感じました。今では考えられない事もありおどろきもありました。

市内の2つの小学校にも行きました。学校の中はとてもくらくて、こわかったです。かべには、伝言がかいてあって、患者の名前や母を探す言葉などがかいてありました。血もついてたりして、すごい当時の状況が伝わりました。また全国からたくさんのお鶴が集まっています。すごかったです。

僕は、この三日間広島のことをたくさん学びました。いろいろな物を見て、戦争に対する考えが変わりました。そのような事をふくめとても良い研修でした。この学んだ事を心に刻み忘れることなく、たくさんの人に伝えていきたいです。



富士見中学校2年
お桜 田名 窪

「平和への一歩」

昭和二十年八月六日、午前八時十五分。原子爆弾によって、多くの命が失われました。周りを見わたせば、どこまでも続く焼け野原。街をさまよい歩く、水を求める皮膚の焼けただれた人々。その向こうに見えたのは、水の流れていた川。たくさんの人々の命が、水の干上がる川であった場所。山積みになされていく。原爆一つで、広島の様子は変わり果ててしまいました。

あれから七十三年。私は研修として広島を訪れました。そこには、多くの人々が行きかう、原爆を感じさせない広島がありました。そして、荒々しい姿でも堂々と建つ原爆ドーム、数えきれないほどの折りづるに囲まれ、まっすぐと未来を見つめる原爆の子の像、今もなお、遺骨のなお墓の前で静かに手を合わせる人の姿がありました。

また、至るところに、当時の人々が私達に残したものも数多くあります。赤く染まった少女のワンピース、八時十五分で止まった腕時計、さびたまま形だけ残った色の無い三輪車……。残されたものの全てが、原爆の

恐しさを語っています。それでも、この過ちの過去を受け止め、未来の平和のために前を向く人、過去のこどとして、忘却や風化をさせないように活動している人が沢山いること。こうして、人が人へと想いをつなげています。

私達がこれまで歩んできた道は、過去として残ります。その過去が、未来をより良くするために残っているのあれば、私達には、この過去の過去を受け止め未来につなげていく義務があります。私達は、人間が人間らしく過ごせる平和な未来をつくることができます。荒れた悲惨な未来をつくることもできます。全て、私達の選択次第で未来は動きます。みなさんは、どんな未来を望みますか。

八月六日の夜、夜空の下でとうとうが川に流されました。その一つ一つには、核のない平和な未来を願う一人一人の想いが文字となって表されていました。想いを文字や言葉にし、形にすることで、私達の望む未来が見えてきました。

私は、平和とは、今ある日常のことを指すと思います。空が青いこと、川に水が流れていること、雲が白いこと、風が吹くこと、大切だと思える存在の人がいること……。そんな日々が続くことを願います。そして、この広島・長崎が最後の被爆地になること、核兵器廃絶を強く願います。

